
第6章

高校生向け

講義用テキスト

《参加・体験型》

I 講義用テキストの使用にあたって

▶ はじめに

本章は、高校生を対象とし、クラス単位など15～50人程度までの人数で行う租税教室を想定して作成しています。主に、パネルを黒板に貼りながら授業を進めていきます。可能であれば、講師と補助者の2名体制で授業を行うと、よりスムーズに進行できるでしょう。（講師1名でも問題ありません。）

《参加・体験型》の特徴は、「税金を集めるゲーム」などを行い、生徒と講師が対話しながら進める授業形式であることです。《参加・体験型》の授業によって生徒の自ら考え、判断し、表現する力を育むことが期待でき、これは学習指導要領における公民科の教科目標にも沿うものです。

小中学校とちがい、高校の租税教室では、求められる難易度や内容が学校ごとに大きく異なると想定されます。事前の打合せで学校の要望を聞き、ニーズにあった授業を組み立てましょう。

授業に取り組むにあたり、本書の「租税教育に取り組むにあたって（P3～）」や「学習指導要領について（P16～）」をぜひご一読ください。

▶ シナリオ例の概要

はじめに「税の意義・役割」として、税の使い道や役割を具体的に説明し、次に、意義・役割への理解を前提として国の財政状況や課題に触れ、考察します。そして、主な税目が約50種類あることを紹介し、種類の多さに疑問を持たせながら、シナリオのメインである「税金を集めるゲーム」を開始します。

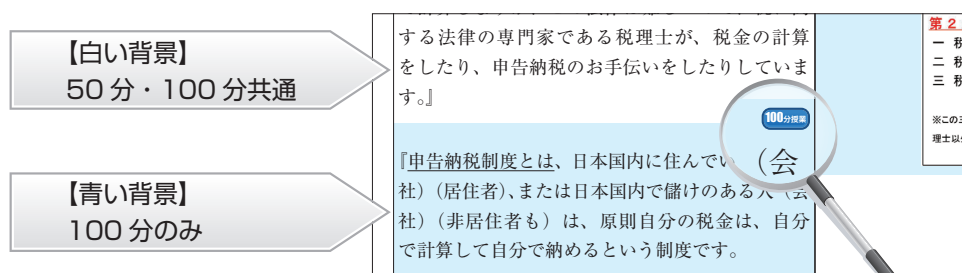
「税金を集めるゲーム」では、様々な集め方の存在や、立場による「公平」の感じ方の変化、さらに互いの意見を重んじながら合意を形成していく過程を体験することで、国民主権・民主主義・租税法主義の概念の理解につなげます。

ゲーム終了後、日本における税の決められ方として国会の仕組みや日本国憲法に触れ、ゲームで体験した流れと重なると説明し、「税を通して民主主義を考える」ことを学びます。

最後は、主権者としての社会参画意識、健全な納税者意識を抱いてもらい授業を締めくくります。

▶ シナリオ例の見方

○テキストは1コマ授業用と2コマ授業用と、背景を色分けしています。1コマの場合は、白い背景の部分のみを、2コマの場合は色つきの背景も合わせて授業を行ってください。



II 授業時間モデル

テーマ	No.	項目	内容及び目的	目安時間	
				1 コマ	2 コマ
導入	1	あいさつ・自己紹介	良い第一印象となるよう心がけ、児童生徒の気持ちを引きつける。あわせて講師である税理士がどのような職業が簡潔に紹介する。	3分	5分
	2	税理士の仕事と申告納税制度			
	3	講義のテーマ紹介	今日の租税教室のテーマを予め伝えることで、今何を学んでいるのかを明確にする。		
I. 税の意義・役割	1	税はなぜ必要なのか？	税が必要な理由を考え、税が私たちのために存在し、私たちのために使われているということを認識させる。	10分	15分
	2	税は誰のためのもの？			
II. 財政の現状と今後の課題	1	財政の現状	財政赤字、少子高齢化等の問題に触れながら、主権者として租税立法のあり方や税の用途について関心を持つこと、公正な判断力を持つ国民になるよう自ら考えることの必要性を理解させる	5分	10分
	2	財政の今後の課題			
III. 税から考える社会の仕組み	1	税の種類	主な税目が約50種類と多いことの意味を理解させる。また「ゲーム」を通して、公平感の感じ方の立場による違いや意見の対立・合意形成の過程を体感させ、社会の構成員として民主主義の仕組みを考えさせる。	5分	10分
	2	ゲーム（税金を集める）		15分	30分
	3	税を通して見る民主主義		10分	20分
結びに	1	授業のまとめ	主権者として、知識を持ち、自ら考えることの重要性を改めて伝え、授業を締めくくる。	2分	10分
	2	税理士の仕事			
				50分	100分

※時間配分は目安です。

※シナリオ例は、1コマないし2コマの授業時間に対して、分量を若干多めに作成していますので、内容を取捨選択して使用してください。

本章に関連するファイル

- ・授業用パネル（PDF）
- ・授業用パネル（パワーポイント（注））
- ・アンケート用紙（高校生用、教員用）（Word）

（注）パネルと同じ内容をパワーポイント化したものです。パネルを貼りながらの授業が困難な場合にご利用ください。

※日税連HP「租税教育」のページで公開していますので、ダウンロードしてご活用ください。日税連HP「租税教育」のページの開き方は、本書P9の手順をご覧ください。次のURLを直接入力して開くこともできます。

（<http://www.nichizeiren.or.jp/taxaccount/education/>）

講義用テキスト

シナリオ例	補足・解説
導入 ① あいさつ・自己紹介 『皆さんこんにちは！これから租税教室をはじめます。』 『私は税理士の〇〇〇〇です。』 ② 税理士の仕事と申告納税制度 『税理士はどのような仕事をしているか知っていますか？』 『私たち税理士は「税理士法」という法律に定められた税の専門家（スペシャリスト）です。 「税理士法」にはその使命や制度、規定や業務、責任等が定められています。』 『日本では、原則として自分の税金は自分で計算して、自分で納めます。このことを、「申告納税制度」といいます。税金は、税に関する法律に従って計算しますが、この法律は難しいので、税に関する法律の専門家である税理士が、税金の計算をしたり、申告納税のお手伝いをしたりしています。』 100分授業 『申告納税制度とは、日本国内に住んでいる人（会社）（居住者）、または日本国内で儲けのある人（会社）（非居住者も）は、原則自分の税金は、自分で計算して自分で納めるという制度です。』	・パネルを貼る。  ・自己紹介は生徒との最初の接点です。最初に生徒の心を掴めれば、その後の講義がスムーズに進みます。税理士の職業紹介が租税教育の主たる目的ではないので、端的に紹介する工夫をしてください。 無理に盛り上げたり、笑わせたりする必要は全くありません。得意な方法で、生徒の心を掴んでください。 ・税理士 のパネルを手につく、又は黒板に貼る。 ・ここでは、税理士については簡単な説明にとどめておきます。 ・パネルを貼る。 第1条 税理士の使命 税理士は、税務に関する専門家として、独立した公正な立場において、申告納税制度の理念にそつて、納税義務者の信頼にこたえ、租税に関する法令に規定された納税義務の適正な実現を図ることを使命とする。 第2条 税理士の業務 一 税務代理 二 税務書類の作成 三 税務相談 ※この三つの業務が税理士の独占業務です。税理士以外の人がやってはいけません。 100分授業

シナリオ例

もちろん、税法に従って計算し、税法に定められた書類を作成して提出（国⇒税務署）し、納付（税務署⇒国庫）することが求められますが、「国が税額を決めるのではなく、自分で自分の納税すべき税額を確定するという制度」です。

これは民主主義の最たる制度と考えられます。この制度から「民主主義の考え方では、税金は取られるものではなく、納めるもの」ということがわかりますね。

ただし、自分で計算する、と言っても、まず税法を理解しないと正しい計算ができません。そこで、我々税理士がそのお手伝いをするのです。』

『今日は、この「税金」について皆さんと一緒に考えていきたいと思います。』

③ 講義のテーマ紹介

『それでは、今日のテーマです。』

『今日のテーマは大きく三つあります。』

一つめは、税の意義・役割です。

二つめは、財政の現状と今後の課題です。

三つめは、税から考える社会の仕組みです。ここでは、税の種類や公平な負担、民主主義について考えていきます。

これらのことをみんなで一緒に考えていきましょう。』

I. 税の意義・役割

① 税はなぜ必要なのか？

『それでは一つめの、「税の意義・役割」についてです。』

『はじめに、「税はなぜ必要なのか？」について、考えてみましょう。』

補足・解説

100分授業

・すべての税が申告納税ではなく、賦課課税もあります。

・パネルを貼り、今日のテーマを紹介します。

テーマを紹介することによって、生徒たちは、税金について漠然と授業を受けるのではなく、“税金のこれを学んだ”という意識を明確に持つことができます。

I. 税の意義・役割 II. 財政の現状と 今後の課題 III. 税から考える 社会の仕組み

・このパネルは可能ならば最後まで貼っておきます。

目的

ここでは、「税はなぜ必要なのか？」を考えることにより、「税は自分たちのためにあり、自分たちが支えていくものである」と理解することを目的とします。

・パネルを貼る。

I. 税の意義・役割

- ・税はなぜ必要なのか？
- ・税は誰のためのもの？

・パネルを貼る。 **税はなぜ必要なのか？**

シナリオ例

～家族単位の生活と人々が集まった社会生活～

『ここに、家族単位で生活している図と、人々が集まって生活している図があります。これら二つの生活には、どのような違いがあるでしょうか？』

(生徒の回答例)

- ・ 人の数が違う
- ・ 建物の形が違う
- ・ 着ているものが違う
- ・ 田んぼがある
- ・ 自給自足している
- ・ 道が整備されている

『はい、ありがとう。いろいろな意見が出てきました。皆さんの言うとおりに、いろいろな違いがありますね。』

家族単位での生活では、自分のことはすべて自分でしなくてはなりません。一方、人々が集まって生活している社会では、みんなが協力したり助け合ったりすることができます。

例えば、田んぼに水を入れるために遠くから水を引いてきたり、道を整備したりするためには、大きな労力が必要になります。

一人ではできない大きなことでも、人々が協力し助け合うことでできるようになります。このようなことから「税」が生まれてきたと考えることができます。』

② 税は誰のためのもの？

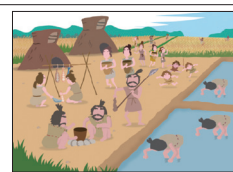
『では、その「税」はいったい誰のためにあるのでしょうか？』

大昔、人々が協力して生活をするようになると、人々をまとめる「リーダー」が生まれました。そして、そのリーダーの中に、より強い力を持つ「支配者」が現れました。支配者は、国の維持や力の誇示のため、米や野菜など支配者へ納める貢ぎ物や、国を守る兵士や労働力を「税」として人々から取っていました。

補足・解説



(図1)



(図2)

・ 家族単位の生活のパネル(図1)と集団生活のパネル(図2)を貼り、生徒たちにそれぞれの違いについて意見を述べてもらいます。

・ 生徒の意見がどんなものであっても否定をせず、聞きます。いくつか意見が出たら、次へ進みます。

・ ここでは、考え方や価値観の違う個人同士が結びつく社会(シナリオでいう「人々が集まって生活している社会」)において、共通の利益を実現するためには「協力し助け合う心」が必要であること、「ルール」(⇒税もその一つ)が必要となることを伝えます。

・ パネルを貼る。 **税は誰のため？**

・ ここでは、「税」は「支配者が国を維持するためのもの」から「国民みんなのためのもの」に変化していったことを説明します。

シナリオ例

『現在の「税」はどうでしょう。例えば、①私たちの健康や生活のために使われたり、②教育や科学技術発展のために使われたり、③住民の安全・安心のために使われたり、④公園や道路などの整備のために使われたり、私たちの周りには、税金の使われているものがたくさんあります。』

『税金は、国民みんなが「豊かな生活のために」、「健康に生きるために」、「文化的に暮らせるように」、「安心して暮らせるように」使われています。』

『つまり、税金は国民みんなのために使われています。』

『先ほど、いくつか例に挙げましたが、国では、社会保障、公共事業、文教及び科学振興、防衛、経済協力などに、〇〇〇では、()、()、()、()といった公共サービス等に使われています。』

『これらの公共サービス等を行うためには、膨大な資金が必要となります。それを賄うための手段の一つが「税金」です。先ほど、「人々が集まって生活している社会」で話したように、私たち一人一人が協力し助け合って負担をしています。私たちみんなが支えているのです。』

補足・解説

・シナリオでは、①から④を例に挙げていますが、四つにこだわる必要はありません。また、生徒たちの身近な施設等を挙げるのもよいでしょう。

100分授業

・写真パネルを利用する。写真や絵を利用することでイメージしやすくなります。



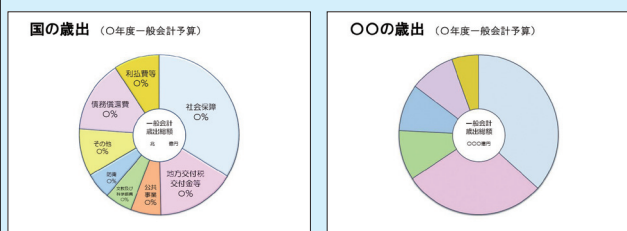
・パネルを貼る。(現在の税の意義として)

- ・ 豊かな生活のために
- ・ 健康に生きるために
- ・ 文化的に暮らせるように
- ・ 安心して暮らせるように

・パネルを貼る。 **国民みんなのため**

・パネルを貼る。(国と各都道府県の歳出)

100分授業



・ここでは、税金の使途の観点から国（社会保障などの全国統一に行う仕事や防衛などの国の存立に関する仕事）と地方公共団体（警察や消防、ごみの収集などといった人々の日常生活に欠かせない身近な仕事）を挙げています。

・各都道府県の歳出については、各都道府県のホームページ等で各自お調べください。

・シナリオの〇〇〇の部分にはそれぞれの都道府県名を、()には各都道府県の歳出例を入れて利用することができます。

・国、都道府県の両方を扱うのではなく、国における税金の使途のみ説明することも、一つの方法でしょう。

シナリオ例

～身近な「税」の使い道 学校教育費～

『税金は、私たち国民みんなのために使われていることを見てきました。もちろん皆さんのためにも使われています。それでは、身近な税金の使い道として学校教育にはどれくらいの税金が使われているのか見ていきましょう。』

『皆さん！人あたりの年間教育費はいくらでしょう？』

『高校生！人あたりに使われている年間教育費は約100万円です。（公立学校に通う生徒！人あたりの年間教育費）』

『学校教育にもたくさんの税金が使われています。その税金を少しでも有効に活用するためにも、皆さんは有意義な学校生活を送ってください。』

～「税金」の役割～

『このように、税金には公共サービス等を行うための「財源の調達」という役割があります。』

『税金には、この他にも「所得の再分配」や「景気の調整」といった役割があります。』

『所得の再分配とは、能力に応じて税を負担し合い、所得や資産の多い人からより多くの税金を徴収することにより、それを社会保障サービスなどの財源とし、所得や資産の格差を縮め、富を再分配して経済的格差を少なくしていくという効果があります。』

『また、国民の生活が安定するように、景気が過熱気味のときには増税をして、国民の財布のひもを締めさせて消費や投資を抑え、景気が悪いときには減税をして、消費や投資が活発になるようにします。これを「景気調整」と言います。』

～単元の確認～

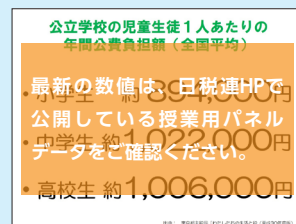
『「税」の意義・役割をイメージできましたか？「税」はなぜ必要なのか？「税」は誰のためにあるのか？

国民みんなが豊かに、健康に、文化的に、安全・安心に暮らすため、国民みんなが負担をする、これが「税」なのです。』

補足・解説

100分授業

- ・身近な税の使い道として学校教育費について、生徒たちに直接関係のある1人あたりの年間教育費を紹介しします。
- ・年間教育費は、クイズを出題する形式で紹介するなどの工夫をしましょう。
- ・パネルを貼る。



- ・私立学校への補助金は都道府県等HPで調べましょう。

- ・パネルを貼る。

税の役割・機能

財源の調達
所得の再分配
景気調整

- ・「税金」の役割については、簡単な説明にとどめるとよいでしょう。

100分授業

- ・この単元の確認をして、次に進みます。

シナリオ例

Ⅱ. 財政の現状と今後の課題

① 財政の現状

『税の意義や役割を理解したところで、実際に日本ではどれくらいの税金が集められ、またどれくらいのお金が使われているのかという「財政」の状態について見てみましょう。』

『令和元年度の国の一般会計予算案では支出額は約99兆円になっています。これに対し税金等の収入はいくらあると思いますか？』

『実は、国の税などによる収入は約67兆円しかないのです。歳出として必要な金額のうち、68%程度ということですね。』

※最新年度の予算は、財務省HPなどでご確認ください。

『歳入、歳出の円グラフです。』

『では、足りない分はどうやって賄ったのでしょうか。それは国債という借入によって賄われているのです。』

『今、日本は税收より歳出の金額の方が多いため、その差額を賄うために国債を発行しており、その残高は増え続けています。』

『そこで現在、政府は、新たな国債による借入れを無くすよう努力しています。このまま国債残高が増え続けることは望ましいことではありません。厳しい道のりですが、ぜひ達成しなければいけません。』

補足・解説

・パネルを貼る。

Ⅱ. 財政の現状と今後の課題

・財政赤字・少子化等の現在の日本が抱える課題に触れながら、民主主義・国民主権の見地から租税立法のあり方や税金の使途等について関心を抱かせ、公正な判断力を備えた国民として成長できるよう、生徒が自ら考えるきっかけを作ることを目的としています。

・板書やパネルを利用してT 勘定の形式で説明すると、日本の財政構造が理解しやすくなるでしょう。

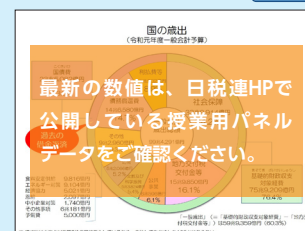
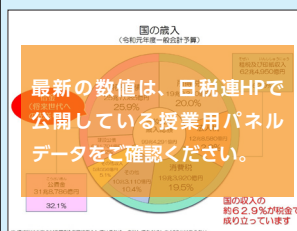
財 政	
(国債の返済)	国 債
歳 出	税收等

※追加の説明

『そのうちの半分は、過去の借入の返済に充てられ、半分が新たな借入です。』

・歳入・歳出の円グラフ

100分授業



・生徒たちに過度な不安を抱かせないために、政府が問題解決に取り組んでいることを伝えます。しかし、一人一人が自分の国の問題として、今後どのように解決していくのか関心を持たせることが重要です。それによって、主権者として積極的に社会へ参画する意識を持つことができるでしょう。

シナリオ例	補足・解説
② 財政の今後の課題 『将来に向けての課題もあります。生まれてくる子どもが少なくなるとともに、働いている人たちが高齢になることが予想されています。つまり少子高齢化の問題です。働く世代の人口減少で税金は今後ますます集まりにくくなるかもしれません。』 『一方で、社会保障費の増加などで、歳出金額は現在よりもさらに多く必要となっていくでしょう。』 『どうしたらよいでしょうか？』 100分授業 『お金が足りない場合の解決方法として一つは、もっと多くのお金を集めること、つまり増税を増やすことです。増税を増やすためには増税があります。そして増税以外にも、景気がよくなれば、会社の利益や個人の収入も増えるので、自然と増税も増えますよね。そのために景気対策をするという方法も考えられます。』 『二つめは、使うお金を減らすことです。でも、必要な支出を減らすと困る人が出てくるので、無駄遣いをしない努力も必要でしょう。』 『国会では、この二つについて多くの議論がされています。』 『この議論は、どちらか一方だけが正しい解決方法ではなく、二つの方法のバランスをとることが大切ではないでしょうか。あるいは、他にも良い方法、つまり三つめの方法が将来見つかるかもしれません。』	・将来予想される財政の課題に触れるとともに財政赤字を解消するためにはどうしたらよいかを考えさせましょう。 ・安易に増税や歳出削減をするのではなく、慎重に考えることが大切であると伝えましょう。 ・また、景気の良し悪しも財政に影響を与えることを理解させましょう。

シナリオ例

Ⅲ. 税から考える社会の仕組み

① 税の種類

～ライフイベント～

『それでは次に、税金の種類について一緒に考えていきたいと思います。』

皆さんが人生でどのような税金と関わっていくのか考えていきましょう。』

『既に皆さんも税金を払ったことがあると思います。どんな税金でしょう？』

『買い物をすれば「消費税」を払っていますね。』

『高校を卒業して、大学に行ったり就職したりします。では就職して給料を受け取ったら、どんな税金を負担するでしょう？』

補足・解説

- ・ パネルを貼る。

Ⅲ. 税から考える社会の仕組み

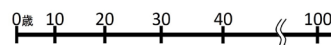
- ・ 税の種類
- ・ 課税の公平
- ・ 民主主義の社会の仕組み

主な税の種類

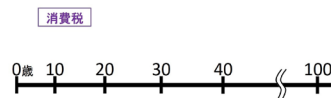
ポイント

年齢ごとのライフイベントに沿って年表を作成し、税金の種類を提示していきます。

- ・ ここでの目的は、税金の種類を覚えてもらうことではなく、たくさんの種類があると印象付けることです。
- ・ 同時にそれぞれの税の性質を理解してもらい、このあとのゲームの際に思考の幅が広がるよう考慮しましょう。
- ・ 税の説明会にならないように留意しましょう。
- ・ 板書例では国税や地方税といったグループ分けをしていますが、これはグループ分けを覚えてもらうためではなく、様々な構成になっていることを印象付けるためのものです。
- ・ 黒板に線を引く。



- ・ パネルを貼る。消費税



- ・ 『同額の買い物をしたら、同額の消費税を負担する』ことを確認し、この後に行うゲームの布石とします。(水平的公平)
- ・ 商業高校、工業高校向けには、給与から天引きされる所得税や住民税について、もう少し詳しく説明するとよいでしょう。

シナリオ例

『個人の所得（儲け）に対しては、「所得税」と「住民税」（と「事業税」）を負担するようになります。』

『そして20歳になりました。喫煙や飲酒ができるようになります。では、たばこやお酒にはどんな税金がかかっているでしょう？』

『たばこを購入すれば「たばこ税」、お酒を購入すれば「酒税」を負担するようになります。』

『30歳になり、独立して会社を起こしました。会社は、どんな税金を負担するでしょう？』

『会社の所得（儲け）に対しては、主に「法人税」と「事業税」（と「住民税」）を負担するようになります。また、会社の営業のため車があると便利だと、自動車を購入しました。』

『自動車を所有すると、どんな税金を負担しますか？』

『自動車を所有すれば「自動車税」を負担します。』

『自動車税のほかに自動車重量税もあるし、自動車を走らせるためにガソリンを購入すれば揮発油税（ガソリン税）を負担します。』

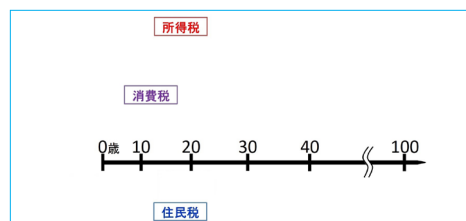
『40歳になり、そろそろマイホームを持ちたいなと、家を建てました。家を所有すると、どんな税金を負担しますか？』

『「固定資産税」を負担するようになります。』

『自動車を所有すれば自動車税を負担するのと同じように、家や土地などの不動産を所有すれば固定資産税を負担するようになります。どちらも財産の所有という事実に基づき課税しています。』

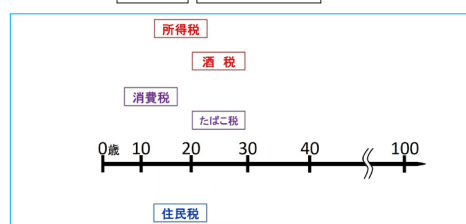
補足・解説

・パネルを貼る。 **所得税** **住民税**



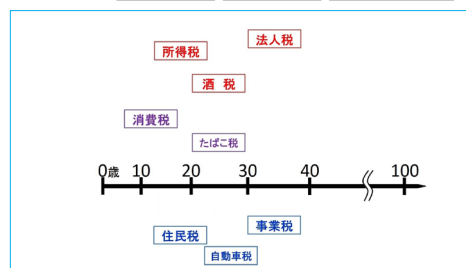
・特定の物品（たばこ、酒、自動車、固定資産）を課税の対象とするものに触れ、この後に行うゲームの布石とします。（応益負担）

・パネルを貼る。 **酒税** **たばこ税**



※20歳の線より右側に貼るようにしましょう。

・パネルを貼る。 **法人税** **事業税** **自動車税**



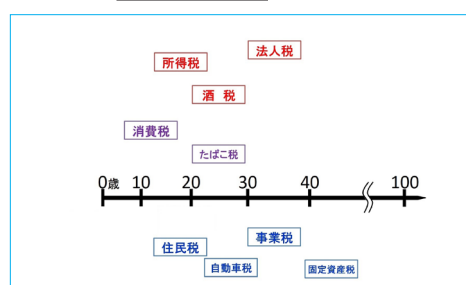
・50分授業の場合も時間があれば次の説明もしましょう。

・自動車重量税 → 国税

・揮発油税 → 国税

100分授業

・パネルを貼る。 **固定資産税**



シナリオ例

『そして寿命が尽きると、残った財産について税金が課されます。どんな税金かわかりますか？』
 『「相続税」が課されます。相続税は、亡くなった人が残した財産を引き継ぐ時に負担する税金です。』

『今ちょっと見てただけでも、たくさんの税金が出てきました。税金を三段に分けているのだけど、この意味は分かりますか？』

「国税」「地方税」そして国税と地方税の双方がある「国税&地方税」の三段です。国税は国の税収となり、地方税はその地域の税収となります。

皆さんの身近な生活の中に「これだけたくさんの種類の税金がある」ということを覚えていてもらいたいです。』

100分授業

一口に消費税といっても、国税としての消費税と、地方税としての地方消費税とがあります。

たばこについては、国税としてのたばこ税・たばこ特別税と、地方税としての地方たばこ税・市町村たばこ税とがあります。

それぞれ国税と地方税を合算したものを納めます。

『それでは、現在の日本には、主な税金は何種類あると思いますか？』

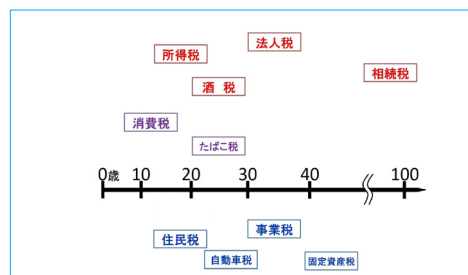
①約30種類 ②約50種類 ③約100種類

『正解は、②約50種類です。』

『では、なぜ約50種類もの税金があると思いますか？』

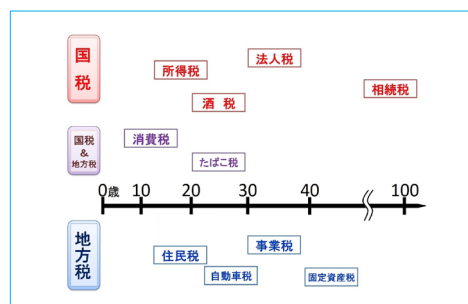
補足・解説

・パネルを貼る。 **相続税**



・パネルを貼る。 **国税** **地方税** **国税&地方税**

【完成図】



・ここでの目的は『税金の種類を覚えてもらうことではなく、たくさんの種類があるのだと印象付けること』であったことを伝えましょう。

・生徒からは、「たくさん集められる」「大勢の人から集める」という答えが出てきます。
 ここではあえて答えを出さず、疑問を投げかけたままにしておきます。
 そして、次の集め方（ゲーム）を通して、答えを考えてもらいます。

シナリオ例

② ゲーム（税金を集める）

『今、皆さんに税金の種類の話をしました。そこで、これから、その税金をどうやって集めたらいいのか、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。』

『次に、三つの班に分かれてもらいます。そしてそれぞれの班で代表者を決めてください。』

（決まるまでここで少し時間を取る）

※できれば事前の打合せて、先生に決めておいてもらうよう依頼しておくともスムーズに進みます。

『はい、決まりましたね。』

『それでは、このクラスを一つの国とします。』

100分授業

『そして、「豊かな生活のため」・「健康に生きるため」・「文化的に暮らせるように」・「安心して暮らせるように」なるために必要なものがあります。皆さんは何かが必要だと思いますか？』

『ではこの国では「××」が必要だということになりました。「××」を買う（造る）ことを考えてみましょう。』

3000を集める						
A						
B						
C						

（表を板書し、準備します）

『この国には3000万円必要だとしましょう。』

『平等に集めるならば、いくらずつ集めればよいでしょう？』

『はい、1000万円ずつですね。』

『みんなが同額のお金を持っているのならば、これは平等ですね。では実際はどうでしょう？それぞれ持っているお金は違いますね。』

補足・解説

・ パネルを貼ってゲームを始めます。

税金を集める 〔ゲーム〕

ポイント

- ①立場の違いによって「公平」をどのように考えるか。
- ②集め方の決定の過程により、国民主権・民主主義・租税法律主義等を理解させる。

ゲームの趣旨

- ①クラスを国に見立て三つに班を分けそれぞれの代表を決めます。（私たちの代表者）

- ②「この国に必要なもの」を話し合って決めます。

100分授業

- ③少数意見を大切にすること、対立の中から相手を重んじ合意を形成していく過程を体感させます。

- ④①～③を経て、「我が日本国」の「議会制民主主義」を理解させます。

目的

ゲームをしながら、「税金を公平に集める」ことを通して生徒と社会を考えていきます。

「公平」を考えさせることは、租税教育における重要な学習支援の一つです。

- ・ 公平にはいろいろな考えがあること
- ・ 平等は必ずしも公平ではないこと
- ・ 公平は不公平と背中合わせにあること
- ・ 立場が変われば公平の感じ方も変わる

税金を1種類の集め方では公平に集めることには限界があるため、約50種類の税金があることに気付かせます。

- ・ 同額を集めるのが「平等」という考え方からスタートします。その後の平等と公平の違いの導入部分のため、時間をかけすぎないようにします。

シナリオ例

『では、A班からC班まで、それぞれ持っているお金が違なかで3000万円を集めてみましょう。』

3000を集める							
2500	A						
500	B						
7000	C						

(それぞれの班の「利益」を決めます)

	利益	税額
A班	2500万円	
B	500万円	
C班	7000万円	
合計	10000万円	3000万円

① 同額で集める

『利益の合計は1億円です。税金を3000万円集めたい。前と同じように平等に1000万円ずつ同額に集めると、このようになります。』

	利益	税額
A班	2500万円	1000万円
B班	500万円	1000万円
C班	7000万円	1000万円
合計	10000万円	3000万円

『B班は払えませんね。この集め方でよいでしょうか?』

(生徒「お金持ちのC班が全額払えばいい。」)

『ではC班に全額を負担してもらいましょう。』

補足・解説

- ・時間がある場合は、班の代表者に「利益」を選んでもらいます。
あとで立場を変えると(7000万円の利益から500万円の利益に立場を変える等)、与える印象が強まります。
- ・生徒が単に形式的に考えないように、あえて順番はバラバラにしましょう。

- ・ここで、「平等」≠「公平」ということを気付かせます。
- ・どうしたらよいか生徒に考えさせます。(B班の人を指名して答えてもらってもよいでしょう。)

シナリオ例

② 全額負担

『このようになりますね。』

3000を集める		同 額	特定の人				
2500	A	1000	0				
500	B	1000	0				
7000	C	1000	3000				
		3000	3000				

	利益	税額	残額
A班	2500万円	0円	2500万円
B班	500万円	0円	500万円
C班	7000万円	3000万円	4000万円
合計	10000万円	3000万円	

『C班の人、これでいいですか？』

(C班「冗談じゃない。みんなで買うと決めたものをなぜうちの班だけで負担しなければならないのですか。」)

『では、どのように集めればよいですか？』

(C班「A班とB班だけでも3000万円になる。」)
(生徒「結局自分のとこがいいだけじゃないか。」)
(C班「さっきはC班だけに負担させようとしていたじゃないか。」)
(B班「それは同額じゃB班が払えないからだよ。」)
(生徒「同額が無理でも、同じ割合で負担する方法があると思います。」)

『では同率で集めてみましょう。』

補足・解説

・ここからは、生徒の反応により順番が前後することがあります。

・ここでの生徒の発言はあくまで一例です。実際にはいろいろな発言が出てきます。

・「応益負担」を説明するために挙げています。

・生徒に「C班だけが負担するなんて不公平だ」と思わせることがポイントです。

・生徒の意見を否定することなく、よく聞き、異なる意見が存在することを確認するようにします。

・生徒の発言はあくまでも一例です。

シナリオ例

補足・解説

③ 同率

『このようになりますね。』

3000を集める		同 額	特定の人	特定の人	同率 (30%)		
2500	A	1000	0	2500	750		
500	B	1000	0	500	150		
7000	C	1000	3000	0	2100		
		3000	3000	3000	3000		

	利益	税率	税額	残額
A班	2500万円	30%	750万円	1750万円
B班	500万円	30%	150万円	350万円
C班	7000万円	30%	2100万円	4900万円
合計	10000万円		3000万円	

(B班「これじゃあ暮らしていけないよ。」)

(A班「C班はまだまだ余裕があるじゃないか。」)

『立場が変わったらどうでしょうか？C班も来年はB班のようになるかも知れないよ。A班やB班も来年はC班のようになるかもしれないよ。』

『自分のことばかり考えず、相手の立場も考えてどのような負担がよいかもう一度考えましょう。』

3000を集める		同 額	特定の人	特定の人	同率 (30%)		
7000	A	1000	0	2500	750		
2500	B	1000	0	500	150		
500	C	1000	3000	0	2100		
		3000	3000	3000	3000		

『それではどのような集め方が考えられるでしょうか？』

(生徒「余裕のないB班は少なめの負担にして、余裕のあるC班にもっと負担してもらう方法があると思います。」)

『ではどう負担してもらえばよいでしょうか？』

・生徒の意見を否定することなく、よく聞き、異なる意見が存在することを確認するようにします。

・立場が変われば公平の感じ方も変わることを体感してもらいましょう。

・体感させたらゲームを元に戻して進めましょう。

・具体的な案を生徒に考えさせましょう。

シナリオ例

④ 累進課税

(生徒「このようにしたらどうですか?」)

3000を集める		同 額	特定の人	特定の人	同率 (30%)	累進課税	
2500	A	1000	0	2500	750	500	...
500	B	1000	0	500	150	50	...
7000	C	1000	3000	0	2100	2450	...
		3000	3000	3000	3000	3000	...

	利益	税率	税額	残額
A班	2500万円	20%	500万円	2000万円
B班	500万円	10%	50万円	450万円
C班	7000万円	35%	2450万円	4550万円
合計	10000万円		3000万円	

『この他にはないでしょうか?』

100分授業

『最初に決めた「××」を買う（造る）にあたり、このように、様々な集め方を考えてみましたが、どの方法で税金を集めたらよいと思いますか?』

『それではこの国ではどの方法で税金を集めるのか決めましょう。』

『その際相手の立場もよく考えてくださいね。安易に少数意見を切り捨てないようにしましょう。』

『今回は「〇〇」の方法で税金を集めることになりました。』

(ここでゲームはいったん終了します。)

補足・解説

・ここでは「負担する能力に応じて公平」という考え方を説明します。

・そのほか「B班は借金をする」、「余裕のあるA班C班で折半する」、「累進税率をもっと極端にしよう」など、いろいろな意見が出ますが、生徒たちの意見を否定することはせず、それぞれの考え方、感じ方に違いがあることを確認します。

・どの方法で税金を集めるか、代表者を中心にみんなで話し合います。例えば、まず班で一つの意見を決め、その後代表者を集めて集め方を決めます。代表者が集まり決定することが国会の開催に相当します。

・税金は集め方によって負担感が違いますから、その中でみんなから税金を集めるためには他者への配慮を考える必要があると話をします。

・税金は勝手に決められてしまうものではなく、私たちが決めているということを実感してもらいましょう。(ゲームの目的の再認識)

・その際、「対立」から「合意」に至る過程で、自らの意見と相手の意見(個人の尊厳と基本的人権の尊重)の違いをよく考え、合意形成していく大切さを実感してもらい、少数意見を切り捨てないように助言をしていきます。(民主主義の基本原則を確認)

・生徒の気持ちをゲームから切り替えさせましょう。

シナリオ例

『実は、これらの集め方はある意味においては、すべて公平な集め方といえるのです。』

『それぞれの集め方が、どの税金に対応するかを説明します。』

・平等（同額）に集める … 消費税

100分授業

『消費税は、同じ行為に対し、同じ税額を負担することになるので、ある意味において公平ですが、低所得者にとっては、収入に対する負担割合が高くなる問題（逆進性）があります。』

・特定の人（使う人・持っている人）から集める
… 自動車税・たばこ税・酒税・固定資産税

100分授業

『固定資産税は、土地や建物を持っている人が負担しています。自動車税は、自動車を持っている人が負担します。また、酒税は、お酒を買った人が負担します。たばこ税は、たばこを買った人が負担する税金で、価格のうち60%を超える部分が税金です。これは、とても税金の占める割合が多いものの一つです。』

・同率で集める … 法人税・住民税

100分授業

『法人税は会社や団体の所得にかかってくる税金で、毎年、その会社の所得に一定の率でかかってきます。』

・能力に応じて（累進課税）集める
… 所得税・相続税

100分授業

『課税される金額が大きくなるにしたがって、税率が段階的に高くなっていきます。これを累進課税と呼んでいます。』

このような負担の方法は、税の「所得の再分配」機能の一つです。』

		消費税	自動車税	酒税	たばこ税	固定資産税	法人税	住民税	所得税	相続税
		同額	特定の人	特定の人	同率(30%)	同率(30%)	同率(30%)	同率(30%)	累進課税	
2500	A	1000	0	2500	750	20%	500	...		
500	B	1000	0	500	150	10%	50	...		
7000	C	1000	3000	0	2100	35%	2450	...		
		3000	3000	3000	3000	3000	3000	...		

補足・解説

・これらの集め方を利用して、垂直的公平・水平的公平、応益負担、応能負担など、公平にはいろいろな考え方があることを説明します。

・「水平的公平」「逆進性」を説明します。

・「応益負担」の例

・「応能負担」の例

・「累進課税」「垂直的公平」「応能負担」

所得税は、所得が多くなるほど税率が高くなる仕組み（超過累進課税）をとっています。これは負担能力の大きい人により大きな負担をしてもらうという考え方で、所得課税としては世界的に一般的な方法となっています。

シナリオ例

『先ほど、なぜ50種類もの税金があるかを聞きましたが、なんとなく分かりましたか？』

どれも公平な考え方による集め方ですが、1種類だけだと公平感が保てません。

そこで、約50種類もの税金を組み合わせることにより、できるだけ公平に負担してもらう仕組みとなっているのです。』

③ 税を通して見る民主主義 ～ゲームの意味と国民主権～

①『このような税金の集め方や公平な負担の仕組みを誰が考えて決めていると思いますか？』

『今のゲームで体験したように、代表者を中心にみんなで話し合っ、このクラスの意見を一つに決めました。実際の日本の社会でも同じようにルールを決めているのです。』

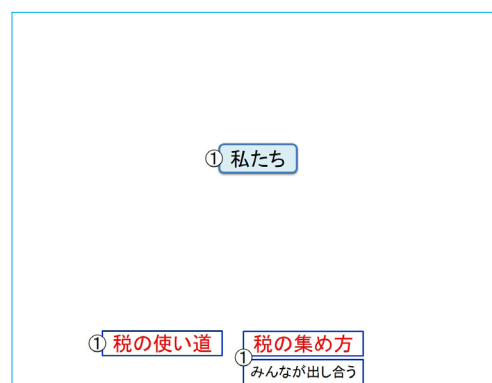
②『「税の集め方」のルールは、法律で決めなければなりません。法律の根拠なしに誰かが新しい税を勝手に作ったり、税の割合を変えたりすることはできません。』

③『皆さん、国会議事堂に行ったことはありますか？ルールである法律は、国会議員が国会で決めています。』

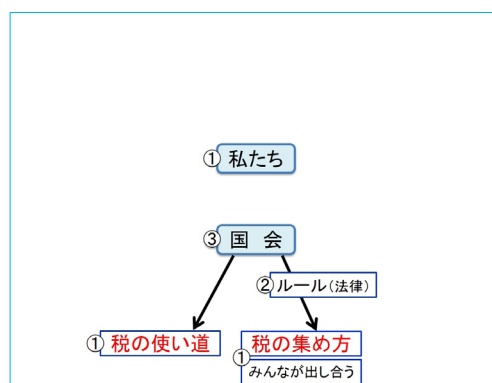
補足・解説

- ・「税金は法律であり、法律は国会で決まる」ことから自分たち国民の意志で決めているのだと認識させます。
- ・また「国民主権」や「租税法律主義」を考えさせ、積極的に社会参画することの重要性を理解させましょう。
- ・生徒たちに主権者としての意識を持たせることが重要です。

・パネルを貼る。 私たち 税の使い道
税の集め方 みんなが出し合う



・パネルを貼る。 ルール(法律) 国会



シナリオ例

④『国會議員は選挙で選ばれます。私たちは私たちの代表者を、選挙を通じて国会や地方の議会へ送っているのです。』

『18歳以上の国民には選挙権があります。国民は、選挙で自分の考えが反映されるような候補者を選んで、自分が目指す社会を作っていきます。』

⑤『私たちみんなが出し合っている税は、国会で税の集め方・使い道が決められ、私たちの生活のために使われています。しかし、もし私たちが無関心でいれば、納得できない集め方・使い道になってしまうかもしれません。』

⑥『そこで私たち国民が、公平に集められているか、有効に使われているかについて関心を持って考え、この国のあり方や税のあり方について一人一人が意見を持ち、主権者として評価する必要があります。』

『その評価を表す方法の一つが選挙です。自ら代表者に立候補すること、または、自分の意見と同じ意見を持つ候補者に投票をすることです。このようにして主権を行使します。』

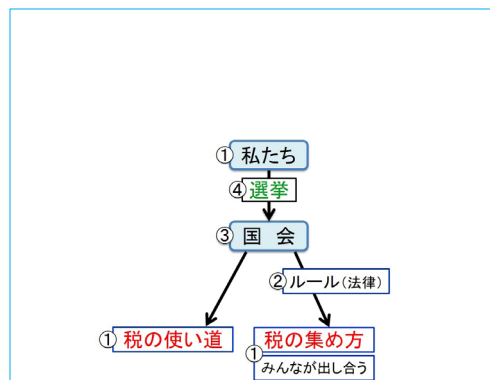
⑦『ここまでで、日本の税の集め方や使い道が、私たちの意見によって決められているということが理解できたと思います。これが、「国民主権」なのです。』

『また、自分の税金は自分たちで決めたルールに従って自分で計算し、自分で納めます。これを「申告納税制度」と言います。』

『主権者である私たちが選挙を通して決める仕組みを「民主主義」と言います。』

補足・解説

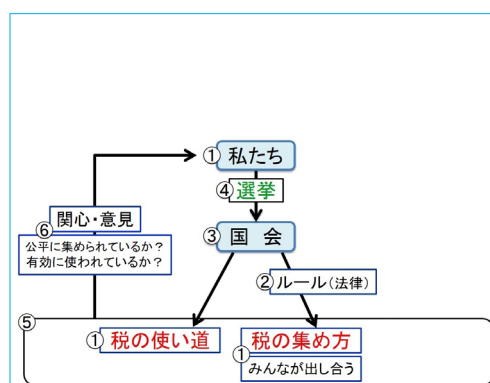
・パネルを貼る。 **選挙**



・パネルを貼る。

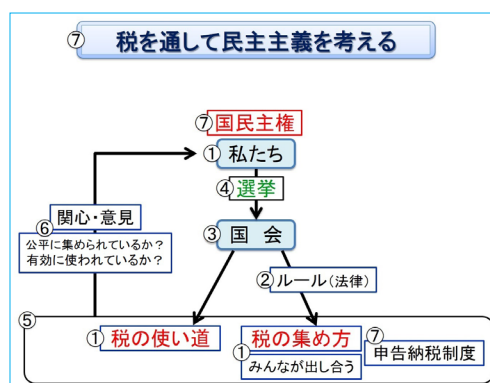
公平に集められているか？有効に使われているか？

関心・意見



・パネルを貼る。 **国民主権** **申告納税制度**

税を通して民主主義を考える



シナリオ例

(⑦つづき)

『ただし、民主主義にとって大切なのは、自分の利益だけを求めるのではなく、他者を尊重し、税についてはどのような集め方・使い方をすれば公平になるのかを考えることです。』

～憲法と民主主義～

⑧『「日本国憲法」では、その前文で国民主権、つまり、私たち一人一人が主人公だと定めています。基本的人権の尊重、平和主義と並ぶ三大原則の一つです。そして、生存権、教育を受ける権利、参政権などの私たち国民の権利について多数定めています。』

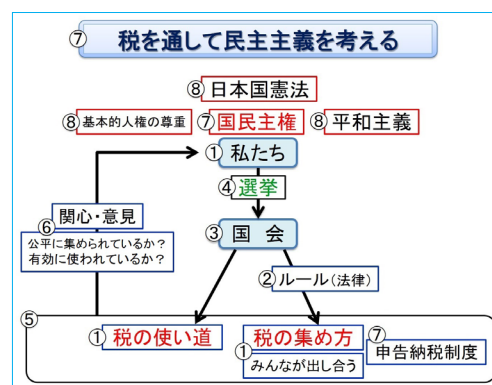
⑨『憲法では、義務についても定めています。これを国民の三大義務といいます。国民の三大義務とは、勤労の義務、教育を受けさせる義務、そして納税の義務です。』

『この納税の義務により、国民はそれぞれの力に応じてその責任を果たすことが求められ、法律の定めに従って、その義務を果たすことが求められています。』

補足・解説

・ パネルを貼る。

日本国憲法 基本的人権の尊重 平和主義



100分授業

・ 時間があれば、権利についても具体的に説明しましょう。

- 「生存権」…健康で文化的な生活を営む権利
- 「教育を受ける権利」…合理的な教育制度と適切な教育の場を要求する権利
- 「参政権」…政治に参加して、主権者として自分の考えを政治に反映させる権利で、選挙権とも言う。また、選挙に立候補できる権利も含まれ、これを被選挙権という。

・ 租税教育で、納税の義務をどのように解説するのはとても重要なことです。

・ 国民すべてに納税の義務を負わせているのではなく、法律の定めるところにより納税の義務を負うこと、民主主義を保持するため、社会の一員として責任・負担を負うことを丁寧に説明します。

シナリオ例

(⑨つづき)

『一方で、国は法律の根拠に基づくことなしに租税を勝手に集めることができません。難しい言葉ですが、このことを「租税法律主義」と言います。法律は選挙で選ばれた人たちが、国会で作ります。』

『憲法で定める国民の「納税の義務」も自分たちで決めたルール（法律）に当てはまる場合だけ、税を納める義務があります。』

結びに

① 授業のまとめ

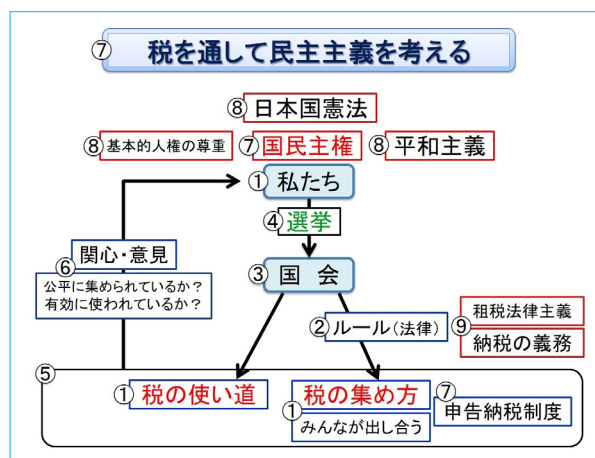
『どうやらみんなから公平に集めることができるのか、そしてその集めた税金を有効に使えるのかは、とても難しい問題で、簡単には結論を出すことはできません。主権者として主体的に考えてください。』

『主権者として社会と積極的に関わっていくことが大切です。皆さんが考えた意見を社会に反映させていくことが、日本の社会を支える民主主義なのです。』

『将来、皆さんが日本をどういう国にしたいのか、そして、自分たちの住む社会をどういうものになりたいのか、皆さん自身でよく考えてください。』

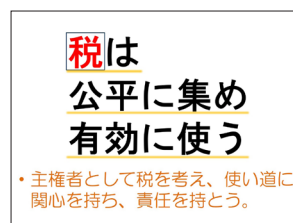
補足・解説

・パネルを貼る。 **租税法律主義** **納税の義務**
【完成図】



- ・完成図を見ながら、民主主義の仕組みを確認しましょう。
- ・「税」を通して問題意識を持たせ、主権者として積極的に社会に参画することの重要性を考えさせましょう。

・パネルを貼る。



- ・社会を支える一員であることを自覚させ、様々な問題に関心を持ち、自身のこととして考えるきっかけを作ってください。
 - ・税に対する知識を深めると同時に、税を題材にして社会を考えさせることにより
 - 公平について考え
 - 民主主義の理解を深め
 - 積極的に社会参画する自覚を芽生えさせる
- このような租税教育を実践しましょう。

シナリオ例	補足・解説
② 税理士の仕事 『さて、最後に私たち税理士の仕事について簡単にお話ししたいと思います。』 『税理士の仕事とは、法人や個人経営者の依頼を受けて法人税や所得税等の申告を代理で行ったり、税務書類の作成や税務相談、会計帳簿の作成代行をしたりすることが主な仕事です。 税金関係の法律は毎年のように改正されるため、正確で迅速な税務処理を行う上で、税理士の存在は不可欠です。 また経営の相談役としての役割も求められ、社会的にもますます重要な役割となってきました。 将来、皆さんの中から税理士になる人も出てくるのではないのでしょうか。ぜひ目指してみませんか。』 『それでは本日の租税教室を終了いたします。ありがとうございました。』	最初に説明する場合は、入れ替えて使用してください。 税理士が行う租税教育は、単に「税金を納めましょう」という納税教育ではありません。「税」を通して社会の仕組みを考え民主主義全般に関する理解を深め、租税の意義・役割・課税の公平・租税法律主義・民主主義における納税の意義などを理解してもらいましょう。 そして、申告納税制度の理念のもと租税について深く考え理解する力を育み、租税教育を通じて、国民一人一人が社会のことを考え、租税立法のあり方や税金の用途等について公正な判断力を備えた国民に成長してもらうことを目的としていることを忘れないでください。